

大津市営競輪「高松宮記念杯」

売り上げ149億円 過去最低に...

PR策“落車” 目標170億円と大差

大津市営の大津びわこ競輪場で一日から四日間開催された特別競輪「高松宮記念杯」の車券売り上げが、百四十九億六千二百万円にとどまり、目標の百七十億円に達しなかったことが八日、分かった。市は、全国のコンビニエンスストアで特別観覧席指定券を販売するなどしてPRに努めた上、景気回復の兆しもあって「目標は達成できる」と期待していたが、売り上げは百五十億円を下回り、同記念杯としては過去最低となった。累積赤字を抱える競輪事業は、一段と厳しい経営を迫られることになった。

競輪事業 3年連続赤字か

高松宮記念杯は市営競輪事業の主力で、年間売り上げの七割以上を占める。ピークの一九九八年には三百五十一億円を売り上げた。翌年に開催期間が六日から四日に短縮されたが、それでも二百億八千二百万円に落ち込みに、累積赤字は六億五千八百五十万円前後に上った。市は、本年度当初予算で年間売り上げを二百六十九億円と見込み、うち記念杯の目標を百七十億

円に設定した。特別観覧席指定券をコンビニ「ローソン」の全国八千六百店で発売したり、宣伝力を京都や大阪などの繁華街で走らせてPRを強化し、景気回復も追い風とみて「目標は達成できる」としていたが、遠く及ばなかった。今後は、一般競輪で誘客に努め、場外車券の販売に力を入れる。ただ、高松宮記念杯の目標額の不足分(約二十億円)を補うのは「極めて厳しい状況」(市財政課)といい、三年連続の赤字となりそうだ。